

パネル紹介や炊き出しを実施

宮坂建設工業 防災訓練に参加

【岩見沢】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は8月30日、浦白町農村センターで開催された町地域防災訓練に参加し、防災グッズ展示や炊き出しなどの災害対応活動を展開した。写真。



同社は2012年7月に同町と自然災害発生時の応急復旧業務に関する協定を締結。災害発生時には札幌支店から資機材、人員を派遣する。

今回事となる町主催の防災訓練には札幌開建滝川河川事務所、砂川警察署ら関係機関・団体が参加。長雨と台風で石狩川の堤防が決壊する恐れがある状況を想定し、訓練した。同社からは15人が参加し、避難バッグや非常食について説明。東日本大震災の被災地への支援活動や、06年11月に同社社員1人が犠牲となった新佐呂間トンネル現場の竜巻の被災状況をパネルで紹介した。

佐々木勝幸札幌支店長は「協定に基づき、緊急時の対応に万全を期したい」と話している。

浦白町地域防災訓練に参加 炊き出しなどで支援

宮坂建設工業が指導、グッズ展示



職員十二人が加わった。訓練は、長雨と台風で石狩川決壊の危険があり、住民避難が必要との想定。あいにくの雨天のため、一部の訓練は町農村センターの屋内で行われた。

同社は炊き出し機材を提供するともに、実際の炊き出し指導で支援写真。このほか、緊急時のロープ結びを実演し、参加者に手ほどきした。また、防災グッズ展示に合わせて乾パンの試食コーナーも設け、町民の防災意識向上を後押しした。

加した。

【岩見沢発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は八月三十日、浦白町が実施した二十五年度地域防災訓練に参加し、地域住民の防災意識向上に貢献した。同社は自然災害発生時の復旧支援のため、二十四年七月に同町と災害協定を締結。当時、自治体とは初めての協定で、地形的に水害が起きやすい同町への出動

訓練には町内の幼稚園児、小中学生を含む地域住民や開発局、消防、自衛隊の関係者などおよそ五百人が参加。同社からは佐々木勝幸札幌支店長をはじめ役

防災意識向上目指し

小中生ら400人 雨の中を避難

浦白初の住民参加型

【浦白】住民参加型の地域防災訓練が町主催で初めて行われた。雨の中、小中学生を含む町民ら約400人が会場の農村センターに集まり、いざというときの備えを確認した。8月30日に行われた訓練は、長雨や台風により石狩川堤防の決壊など大災害の恐れがある一との想定で、町が午前8時45分、全町に避難勧告を発令。要援護者の安全を確認しながら、浦白地域の住民が次々と自主避難し、

雨の中、訓練で浦白小から避難し、農村センターに向かう児童の姿。



（杉村晋）